
はじめに

発刊の辞（理事長 藤谷宣人、学長 高橋史郎）	P. 1
自己点検・評価「多摩美術大学 2000 - 2003」の 基本的考え方について	P. 3
自己点検・評価活動の進め方	P. 4
自己点検・評価部会組織	P. 5
外部評価者紹介	P. 6

多摩美術大学の概要

多摩美術大学の理念	P. 7
多摩美術大学の沿革	P. 8
基礎情報	P. 12

多摩美術大学の諸活動の現状

教育・研究活動について	P. 15
学生支援活動について	P. 93
施設について	P. 112
社会貢献活動について	P. 141
入学・卒業状況について	P. 168
管理運営について	P. 199

外部評価による評価

外部評価報告	P. 221
--------	--------

その他

資料	P. 239
編集後記（自己点検・評価部会長 森下清子）	P. 270



理事長・藤谷 宣人

「多摩美術大学 2000-2003」の刊行にあたって

このたび多摩美術大学は「多摩美術大学 2000-2003」を刊行する。本書は、1999年に発行した「多摩美術大学 1997-98-99」に続く第2弾であり、大きく変わったところは本学のあらゆる分野について直接、具体的にヒアリングを行い、多角的な自己点検・評価をしたことである。

2004年は、わが国のすべての大学にとって節目をなす年であるといえよう。すべての国立大学が国立大学法人化されたこと、少子高齢化を中心として、大学を取り巻く諸情勢が更に進んだこと、そして学校教育法の改正によって全ての大学が7年に1度、国が認定した認証評価機関の評価（認証評価）を受けなければならないことなど話題の多い年であった。特にこの認証評価の意義は大きい。その根底にあるのが自

己点検・評価である。

本学は、いち早く1992年全学からなる教育充実検討委員会を発足し、そのなかに自己点検・評価部会を設け、以来制度的に自己点検・評価に取り組んできた。その一環として、授業の評価も毎年おこなっており、授業方法の改善に反映されている。

たえず現状を点検・評価し、大学改革にむけた課題を整理し可能なものから実行する施策を講じることは極めて重要なことであり、このことが多摩美術大学の絶えざる発展の原点ではないかと思っている。

これからの変化の多い時代は、高い志を持って全学一体となって大学改革を行って、純度の高い個性輝く大学にすることが求められており、社会や学生に認知されなければ発展することができない。本学は、そうした社会的要請に応え、改革を怠らずフロントランナーとしての役割を果たしたい。

本書の刊行にあたり、自己点検・評価部会長の森下清子教授のたゆまぬご尽力と委員の方々、各研究室、各関係部局の方々のご協力に心から感謝申し上げます。



学長・高橋 史郎

刊行の辞

本学は、学則の第一条において「教育・創作・研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果に基づいて改善・充実に努める」と規定しています。

2000年に刊行しました「多摩美術大学1997-98-99」に続いて、今回「多摩美術大学2000-2003」が刊行されますことは、本学の自己点検・評価活動が着実に機能しつつある現れといえます。

近年、学内の各学科研究室や事務部が発行します各種の刊行物は、ますます充実したものになっていますが、本書のように、大学全体を網羅し、客観的に記述する刊行物は重要であります。

本学は今後とも、このような情報開示により社会の信頼に応え、教育・創作・研究水準の向

上をはかり、本学の目的及び文化的・社会的使命の達成に努めます。

本書の刊行を担当した自己点検・評価部会長の森下清子教授はじめ、編集執筆作業に参加し、ボトムアップしました、多くの教職員のご尽力に感謝いたします。

自己点検・評価「多摩美術大学 2000 - 2003」の基本的考え方について

自己点検・評価「多摩美術大学 2000 - 2003」を出版するにあたり、その目的、方法等を以下のとおり定めた。自己点検・評価活動を行うに際し、それに関わる全ての関係者が、この基本的考え方の趣旨を共有するものとした。

< 自己点検・評価「多摩美術大学 2000 - 2003」の目的について >

2004年4月1日より学校教育法上の規定が施行され、国公立を問わず、全ての大学、短期大学、高等専門学校は、7年以内に1度、文部科学大臣が認証した認証評価機関からの評価を受けることが義務づけられた。又、認証評価機関による評価の実施とは別に、大学が自らの活動を検証し広く社会に説明する責任を負うものと多摩美術大学では認識している。

多摩美術大学では大学独自の自己点検・評価活動を従前より行って来た。今回は、認証評価機関による評価を視野に入れた、より深い検証が可能な自己点検・評価活動を行う。

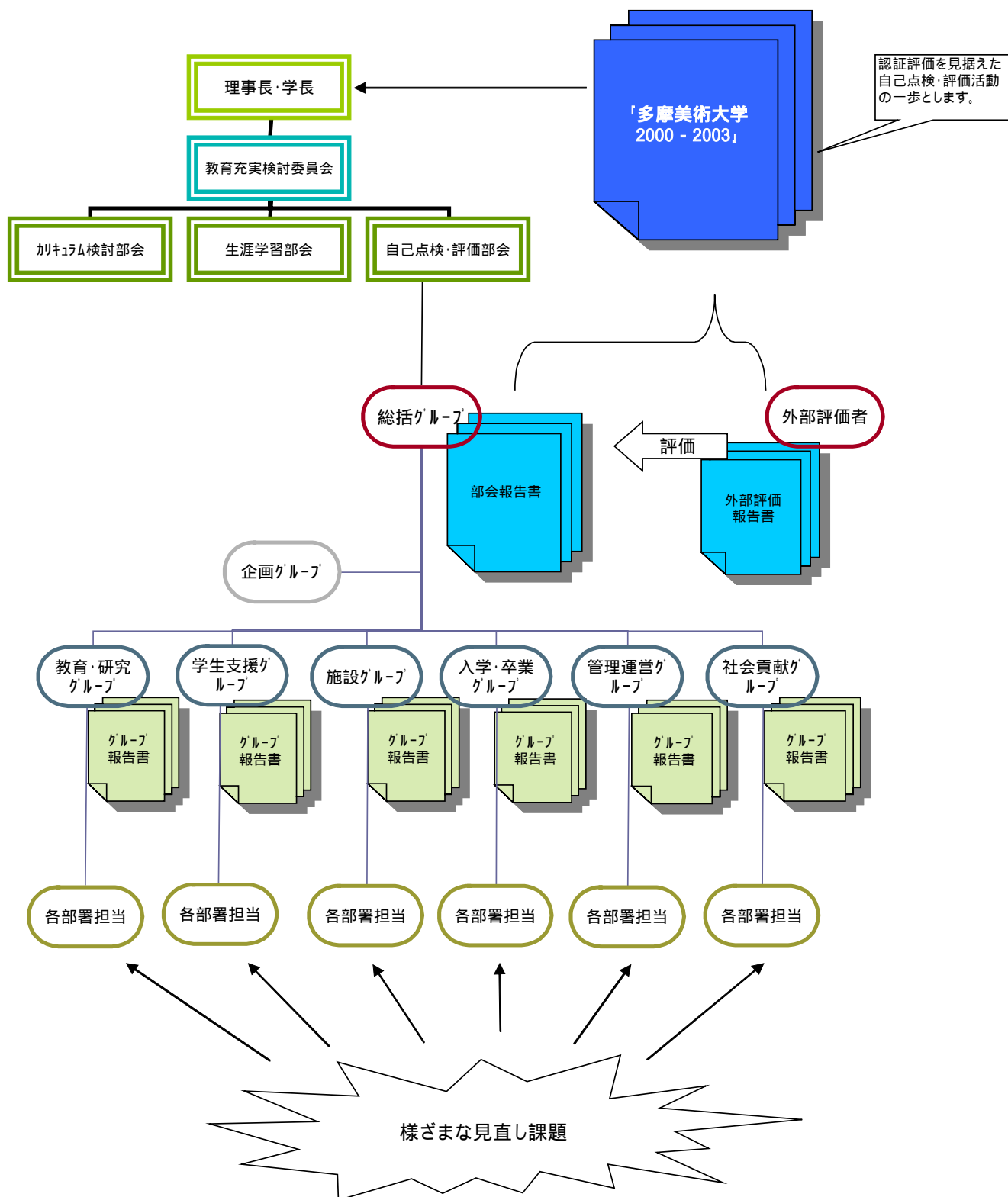
< 自己点検・評価「多摩美術大学 2000 - 2003」の内容について >

- ・本報告書は、学内組織である教育充実検討委員会自己点検・評価部会における分野ごとの作業グループによりまとめられたグループ報告及び、外部評価者による報告書（座談会議事録）から成る。
- ・各作業グループが報告書をまとめるにあたっては、各グループが最優先とする利益の視点により、グループ報告書をまとめた。そのため、グループ報告間で矛盾が生じる場合があるが、本学における現状・課題をありのままに掘り下げる方法として、グループ報告を最大限に生かした。
- ・取り扱う項目は、多くの項目を詰め込みすぎず、分かり易くした。
- ・自己点検・評価活動のプロセスそのものを重視する狙いから、詳細に過ぎる問題点の指摘、コンセンサスを得ていない改善案、履行期限を定めた改善案などの提示は行わないこととした。
- ・外部評価者による評価は、認証評価に向けての第一歩として本学独自に行なうものである。よって、改善点や時期は履行の責任を負うものではない。自己点検・評価のプロセスそのものを重視することを狙いとする。但し、外部評価の結果は今後の自己点検・評価活動、各部署の運営に積極的に役立てるものとする。
- ・外部評価者の選定にあたっては、本学に関係するものを排除し、可能な限りの公正さを保つことを心がけた。

< 自己点検・評価「多摩美術大学 2000 - 2003」活動の進め方 >

- ・本活動の進め方は、次の手順と組織により行なう（P.4～5参照）。

自己点検・評価活動の進め方



自己点検・評価部会組織

作業グループ名	グループメンバー
総括グループ	森下清子（部会長・教務部長）、清田義英（美術学部長）、米倉守（造形表現学部長） 柿本静志（総務部長）、中島和彦（経理部次長）、石井涉（総務部総務課・事務担当）

作業グループ名	グループメンバー
企画グループ	森下清子（部会長）、柿本静志（総務部長）、恩蔵昇（総務部総務課長） 荒川直（教務部事務部長）、田中誠二（造形表現学部事務部事務課長） 中島和彦（経理部次長）、石井涉（総務・事務担当）
教育・研究グループ	市川保道（日本画）、室越健美（油画）、渡辺達正（版画）、中島祥文（グラフィック） 近藤秀實（美術学部共通教育）、猪股裕一（デザイン）、中村隆夫（造形表現学部共通教育） 森下清子（教務部長）、荒川直（教務部事務部長）、田中誠二（造形表現学部事務部事務課長）、河島吉成（教務部教務課・事務担当）、渡邊由美（教務部教務課・事務担当）
学生支援グループ	竹田光幸（彫刻）、伊藤孚（工芸）、福島勝則（映像演劇）、中野嘉之（学生部長） 畔上洋一（学生部就職課長）、植村博（学生部次長）、田中誠二（造形表現学部事務部事務課長）、伊藤多恵（学生部学生課・事務担当）
施設グループ	田淵諭（キャンパス設計室）、渡邊清光（施設整備室長） 甲斐重守（総務部八王子校舎総務課長）杉本功（総務部総務課・事務担当）
社会貢献グループ	田淵諭（環境デザイン）、須永剛司（情報デザイン）、海老塚耕一（芸術） 筒井一憲（図書館事務部事務課長）、仙仁司（美術館事務室長） 野澤敏之（メディアセンター事務室長）、田村勇二（教務部学務課長）、渡邊美紀子（生涯学習センター事務部）、米山秀樹（教務部教務課・事務担当）
入学・卒業グループ	岩倉信弥（プロダクト）、皆川魔鬼子（テキスト）、北條正庸（造形）、川崎勇（学生部事務部長）、伊藤憲夫（企画広報部次長）、＜畔上洋一（学生部就職課長）＞ 米山建彦（企画広報部企画課・事務担当）
管理運営グループ	柿本静志（総務部長）、恩蔵昇（総務部総務課長）、中島和彦（経理部次長） 森下清子（教務部長）、石井涉（総務部総務課・事務担当）

印はグループ長

外部評価者紹介



會田 雄亮

陶芸家

東北芸術工科大学 名誉教授

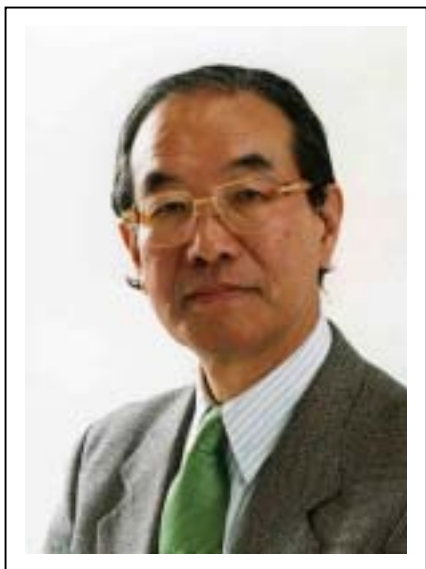
前東北芸術工科大学 学長

千葉大学卒

(社)日本クラフトデザイナー協会監事(元理事長)

(社)日本建築美術工芸協会理事

他、各種国際会議委員等を多数務める



岡島 達雄

琉球大学工学部環境建設工学科 教授

元名古屋工業大学 学長

東京工業大学卒、同大学院(博士)修了

日本建築学会会員、日本インテリア学会理事・副会長

日本コンクリート工学協会会員

日本グリーンビルディング協会副理事長

日本環境創造研究センター副理事長



和田 義博

公認会計士

日本公認会計士協会理事

明治大学商学部卒

学校法人運営調査委員(文部科学省)

大学設置・学校法人審議会学校法人分科会委員(文部科学省)

国立大学法人評価委員会専門委員

明治大学監事